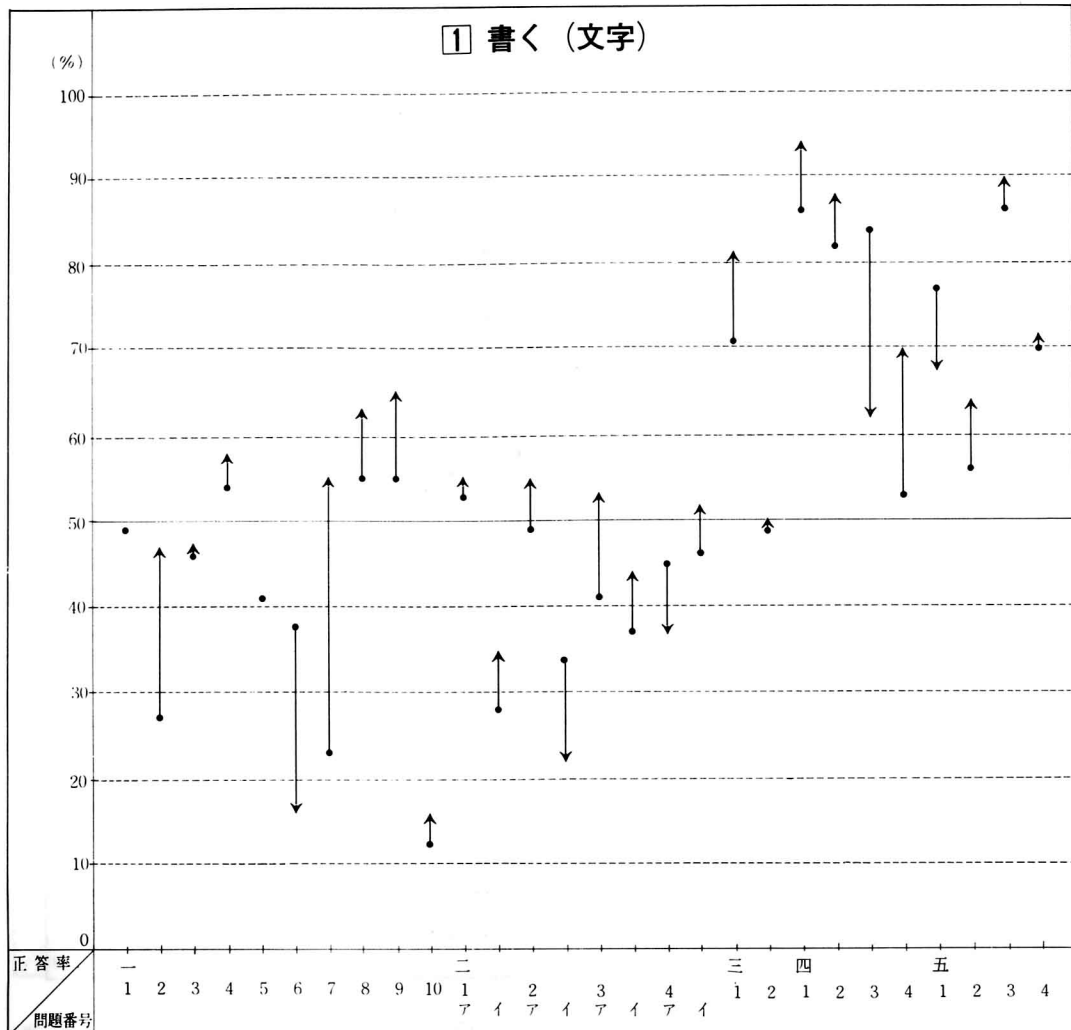


5. 小問ごとの平均正答率の伸び



① 書く (文字)

この領域は、五つの面から出題している。一は、10題あり、「漢字を正しく書く」力を見るものである。6の入場券を除いては向上しているが、正答率50%以下が6問あり、努力を必要とする。

二は、「同音・同訓の漢字を使いわけ」もの4問と、「形の似た漢字を使いわけ」問題4つである。2のイの「除く」と、4のアの「複雑」のほかは向上している。

三は、「正しい筆順で書く」問題であるが、向上が見られる。

四は、「送りがなを正しく書く」問題である。3の「断る」が前より下がっているが「供える、治める、捨てる」が向上している。

五は、「かなづかいを正しく書く」問題である。「むかえに行く」が下がっているが、他の3問は向上している。

以上をまとめてみると、28問中、10問が、50%以下の正答率である。一と二の漢字を書く問題は、他の領域に比べても低率である。読解や作文の指導において特に定着するよう配慮するとともに、とり立てての効果的な練習もする必要がある。